

監督競技者注意事項

1. 規則

競技は2019年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項による。

2. 練習について

- (1) すべての練習は、多目的グラウンドを利用すること。なお、競技場周回ジョギングコースでのスパイクの使用は禁止する。
- (2) すべての練習は、審判員及び係の指示によって行うものとするが、監督、競技者も危険防止を十分留意する。
- (3) スパイクを使用した練習は、100mと200m、およびハードル競技中のみ、バックストレートを開放する。
- (4) 投擲種目の投擲物を利用した練習は、招集完了後フィールド内に移動し、指定された場所において大会主催者が準備したもので練習を可とする。また、競技開始40分前からは、ピットでの投擲練習を可とする。
- (5) 主競技場での練習は、8時30分まで可とする。

3. 競技場について

主競技場は全天候舗装であるので、競技規則第143条④を適用する。したがって走路の保全と競技者の安全のため靴底から外部に出ているスパイクの長さは9mm（走高跳12mm）を超えてはならない。靴底の高さは走高跳・走幅跳は13mm以内、走高跳踵の高さは19mm以内とする。その他の種目の厚さと高さは自由である。

4. 招集について

- (1) トラック競技者は、競技者控え所（第3ゲート外・200mスタート外側付近）に集合し、競技者係の点呼とユニフォーム・ナンバーカード及びスパイクのピンの長さの確認を受け、待機する。
- (2) フィールド競技者は、現地で競技者係の点呼とユニフォーム・ナンバーカード及びスパイクのピンの長さの確認を受ける。
- (3) 招集は、本人が招集所において招集を受ける。ただし、同一時間に他の種目と兼ねて出場するものは、競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を受ける。この場合は、代理人を認める。
- (4) 招集に遅れた場合は、棄権とみなし出場を許さない。（尚、事前に棄権することが明らかなきは招集完了時刻までに招集所へ申し出る。その際、代理人も認める。）
- (5) 招集時刻は下記のとおりである。時間は競技開始時刻を基準とする。

種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	25分前	15分前
フィールド競技(投擲)	40分前(50分前)	30分前(40分前)

5. 入・退場について

競技者は招集完了と同時に競技場へ誘導されるので、係員の指示に従い入場し、競技終了後も指示に従い規律ある行動をとること。

6. 競技方法について

- (1) スタート合図はイングリッシュコマンド(On your marks:オン・ユア・マークス, Set:セット)で行う。不正スタートは1回で失格とする。
- (2) トラック競技予選の走路順、フィールド競技試技順序はプログラム記載の上から下の順序にする。
- (3) 3000mについては、グループスタートを実施する。
- (4) 走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	競技
A男子	1.55 1.70	1.60~1.65~1.70~1.75~1.80~1.85~1.88~1.91
A女子	1.30 1.45	1.35~1.40~1.45~1.50~1.55~1.58~1.61~1.64

①最後の1人になり優勝が決まるまでは、上表の上げ幅を変えてはならない。ただし、残っている競技者が2人以上でも、全員の同意があれば第181条4(a)(b)を適応しないで、県記録を超える高さにバーを上げることができる。

②第1位を決定するためのバーの上げ下げは、走高跳2cmとする。

- (5) 100m, 100mH, 110mHは、風向きによりバックストレートで競技を行うことがある。

7. 記録証について

参加選手全員に記録証を授与する。

8. その他

- (1) やむを得ず棄権するときは、競技者係に申し出る。
- (2) ランニングシャツは、確実にランニングパンツの中に入れて競技をすること。
- (3) 医務室は、スタンド下に置く。
- (4) 更衣については、メインスタンド下の更衣室を使用してもよい。
- (5) 盗難防止については、各自注意すること。不審な行動をする者を見かけたら、近くの競技役員まで知らせる。

- (6) 競技場内は、競技者、役員、補助員以外は立ち入らないこと。
 (7) メインスタンドには、スパイクで入らないこと。
 (8) 応援は、競技運営に支障を来したり、観客の邪魔にならないようスタンドで行うこと。
 (9) ごみは、持ち帰ること。
 (10) 商社名等のついたものは競技場内に持ち込まないこと。(バックは25cm以内は可)
 (11) ピットについて

走高跳 Aピット…第1コーナー寄り
 走幅跳 Aピット…メインスタンド寄り Bピット…トラック寄り
 砲丸投 Bピット…第4コーナー寄り
 円盤投 Aピット…第1コーナー寄り
 ジャベリックスロー Bピット…第4コーナー寄り

- (12) 各校のベンチは、指定された場所のみとする。
 (13) 横断幕・のぼりの設置は指定された場所のみとし、スタンドの前面の設置は禁止とする。
 (14) ジュニアオリンピック大会への参加は、本県としては次の通りとする。
 ① ジュニアオリンピック大会への参加希望者は、本大会の参加希望種目に申し込むこと。
 ② **A男子110mH (0.991m/9.14m)・A女子100mH (0.762m/8.50m)・B男子砲丸投(4kg)・A女子砲丸投(4kg)**はジュニアオリンピック大会と同規格(以下J0規格とする)で実施する。
 ③ **【陸協春季、陸協ジュニア記録会、県選手権、国体予選、県中学春季、ジュニアトライアル、全日本通信、県総体、関東大会、全国大会、本大会】**において標準記録(J0規格)を突破した者については、ジュニアオリンピック大会への参加資格を与える。なお、上記以外の大会で標準記録を突破した者については、本大会までに記録を証明できる物を本大会事務局へ提出すること。
 ④ 標準記録(J0規格)突破者のいない種目については、それぞれの種目ごとに県1名ジュニアオリンピック大会に出場できる。その場合の県1名出場選手の決め方としては、③の【 】内の大会の中でJ0規格の最高記録を出した者にジュニアオリンピック大会への参加資格を与え、同記録の場合は本大会の結果を優先とする。なお、辞退が生じたときには、次の記録の者に資格を与える。
 ⑤ 上記③④で参加資格を与えられた選手が出場できれば、中体連規格の標準記録突破者にも参加資格を与える。
 ⑥ ジャベリックスローについては、本大会1位の選手にジュニアオリンピック大会の参加資格を与える。
 ⑦ 大会終了後に、ジュニアオリンピックの参加資格を与えられた選手の監督は、大会要項及び申込書を本大会事務局より受け取ること。日本陸連および栃木陸協の未登録者は速やかに登録すること。

※参加標準記録

区分	男 子		女 子	
	種 目	写真判定	種 目	写真判定
A	100m	10秒90	100m	12秒30
	200m	22秒40	200m	25秒40
	3,000m	8分45秒00	3,000m	9分50秒00
	110mH (0.914m/9.14m)	14秒40☆	100mH (0.762m/8.00m)	14秒30☆
		(0.991m/9.14m) 14秒90		(0.762m/8.50m) 14秒60
	走高跳	1m91	走高跳	1m63
B	砲丸投(5kg)	14m50	砲丸投(4kg)	11m20
			(2.721kg)	13m80☆
	100m	11秒20	100m	12秒50
	1,500m	4分08秒50	1,500m	4分36秒00
	110mH (0.914m/9.14m)	15秒00	100mH (0.762m/8.00m)	14秒35
	走幅跳	6m35	走幅跳	5m35
C	砲丸投(4.000kg)	14m50	砲丸投(2.721kg)	12m45
	(5.000kg)	13m00☆		
	100m	11秒62	100m	12秒65
A B C 共 通	1500m	4分22秒00	800m	2分18秒50
	走幅跳	5m80	走幅跳	5m00
	4×100m R	★	4×100m R	★
	円盤投(1.500kg)	39m00	円盤投(1.000kg)	34m00
	シャベリックスロー	★	シャベリックスロー	★

- 区分 A (高校1年生) : 2004 (平成16) 年1月1日生～2004 (平成16) 年 4月 1日生)
 (中学3年生) : 2004 (平成16) 年4月2日生～2004 (平成16) 年12月31日生)
 B (中学3年生) : 2005 (平成17) 年1月1日生～2005 (平成17) 年 4月 1日生)
 (中学2年生) : 2005 (平成17) 年4月2日生～2005 (平成17) 年12月31日生)
 C (中学2年生) : 2006 (平成18) 年1月1日生～2006 (平成18) 年 4月 1日生)
 (中学1年生) : 2006 (平成18) 年4月2日生～2007 (平成19) 年 4月 1日生) ※中学1年生の早生まれ含む

*参加資格

- ① 2019年4月1日～2019年9月1日の間に標準記録に到達した者
 ② 標準記録の突破に関係なく、それぞれの種目ごとに各都道府県から代表選手1名は参加できる。
 (標準記録を突破した競技者がいない種目、突破者がいても本大会に出場しない種目には、各都道府県から1名は出場できる。)
 ③ リレーは、各都道府県から1選抜チームのみ出場できる。
 ④ 室内競技会の記録も有効とする。
 ⑤ 参加標準記録を設けていない種目(★印)については、各都道府県から1名(1チーム)のみ出場できる。